

令和5年度
 県南教育事務所重点施策に関する
 調査結果について(中間まとめ)

学校教育課通信

令和5年11月20日(月) 第191号
 編集・発行: 県南教育事務所 笠原 聡美

令和5年度中間調査(9月末時点)へのご協力ありがとうございました。各校・各園から挙げられた成果と課題の一部を御紹介いたします。自校・自園の取組と比較しながらご覧いただき、今後の計画の充実・改善に生かしていただきたいと思います。最終調査は1月末に行う予定です。(○成果 ▲課題(今後に向けて))

1 資質・能力の育成と学力向上(数値目標3.5)			評価平均		
※「資質・能力の育成と学力向上の取組についての調査」より関連するものを抜粋			幼稚園	小学校	中学校
(1) エビデンスに基づく授業改善	①	ふくしまの「授業スタンダード」に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業の工夫・改善に努めている。	/	3.5	3.3
	②	全国学力・学習状況調査結果の分析を受けて、自校の課題解決に向けた学習指導の充実・改善に取り組んでいる。(年間指導計画、日課表、週月案、学習指導案等への反映、校内研修計画の修正・改善・検証等)	/	3.3	3.2
	③	各種調査結果分析・検証の結果について、学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等においても校内研修に取り組む等して充実・改善を行っている。	/	3.3	3.1
(2) 資質・能力の育成を支える基盤づくりとカリキュラム・マネジメントの確立	④	授業改善の視点や授業周辺部の取組(家庭学習の方法等)について、共通理解を図る場を設定し、実施している。	/	3.6	3.4
	⑤	幼・小・中・高の学びの円滑な接続を意識した取組(架け橋期カリキュラムの作成・実施・改善、異なる校種間での対話の機会等)を行っている。	/	3.4	2.9
	⑥	自己マネジメント力の育成に向け、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立や充実のための取組を行っている。(ふくしまの家庭学習スタンダードを指針とする等)	/	3.4	3.1
	⑦	教科等の目標や内容を見直し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等求められる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実している。	/	3.0	2.9
成果と課題	○共通実践として問題解決型の学習を行い、一人一人が課題に対する考えをもつこと、考えを伝え合うために相手の話をよく聞いたり、分かりやすく伝えたりすることを積み重ねてきた結果、思考力が育ってきた。(小学校) ○ふくしまの授業スタンダードを基に、本校での授業づくりにおける共通実践事項を決めて授業づくりに取り組んでいる。(小学校) ○学力向上担当が中心となり、全国学力学習状況調査の分析を行い、実際に正答率の低かった問題を授業で取り扱い、問題解決的な学習を行った。(小学校) ○単元の見直しをもたせ、単元全体や1時間の授業で「学びに向かう力を高める手立て」を設定することで、生徒と教員双方で到達点が明確になるとともに、評価に結びつけやすくなった。(中学校) ○町教研の取組の一つとして小中連携での互見授業を実践し、授業づくりの刺激になっている。(中学校) ▲ふくしま学力調査の分析ツールについて使い方を職員間で共有し、なお一層の活用を図っていく必要がある。(小学校) ▲二つの学力調査の結果から、無回答率の高い問題も見られる。記述式の問題に対する意識の向上を図る必要がある。(中学校) ※記述いただいた内容は、12月開催の学力向上担当者等研修会における研修内容に反映いたします。				
2 生徒指導と道徳教育の充実(数値目標3.5)			評価平均		
※「資質・能力の育成と学力向上の取組についての調査」より関連するものを抜粋			幼稚園	小学校	中学校
(1) 安心して学べる環境づくり	①	不登校児童生徒を新たに出さないように予防に努めるとともに、不登校児童生徒に対しては個別の支援計画を作成し、組織的に対応をしている。	/	3.3	3.2
	②	いじめの未然防止、見逃しゼロに向けた組織的な対応と児童生徒一人一人が主体となって活躍できる魅力的な学校・学級づくりに努めている。	/	3.6	3.3
	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関と連携し組織的に対応している。	/	3.6	3.7
(2) 道徳教育の推進	④	重点的に指導する内容項目について家庭・地域と共有し、学校・家庭・地域と一体となった道徳教育を推進している。	/	3.0	2.7
成果と課題	○不登校生徒に対して、家庭と連携しながら個別に対応している。それぞれの生徒の実態に合わせて、家庭訪問や別室登校・登校練習などの段取り等、共通理解を図りながら個に応じた対応をしている。(中学校) ○生徒指導に関する案件について、管理職を中心とした組織的な対応を行い、未然防止や早期解決につなげていることが挙げられる。また、不登校児童については、行政や外部機関と連携しながら、中・長期的な視点で対応していることが挙げられる。(小学校) ○道徳教育の充実が生徒指導に関わることを実感した。確実に道徳の授業を行い、心の触れ合いを多くしていく必要がある。(中学校) ○全校道徳を実施。6年生がテーマを投げ掛け、全校生で話し合う場を設けることで、問題を自分ごととして捉えることができた。(小学校) ▲不登校児童については、保護者と連絡を取り、家庭訪問をするなど学校とつないでいるが、改善していない状況である。今後、タブレットを使用することも考えている。(小学校) ▲不登校傾向生徒への支援については、子どもたちの実態に合わせて支援していく必要性を強く感じた。また、保護者への支援も必要である。(中学校)				
3 健康マネジメント能力の育成(数値目標3.5)			評価平均		
※「資質・能力の育成と学力向上の取組についての調査」より関連するものを抜粋			幼稚園	小学校	中学校
(1) 体力の向上と運動習慣の定着	①	【幼稚園】「幼児期運動指針」を踏まえ、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を生活全体の中で確保している。 【小・中学校】「ふくしまっ子児童期運動指針(小)」や「体力向上推進計画書」を踏まえながら、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	/	3.3	3.3 2.9
(2) 食育の推進	②	【幼稚園】園全体で組織的に食育に取り組んでいる。 【小・中学校】「食に関する指導の全体計画」に基づき、組織的に食育に取り組み、食育の授業を実践している。	/	3.4	3.6 3.3
(3) 健康の保持増進を図る保健教育	③	自分手帳を活用し、自分の健康状態を把握している。	/	3.2	3.1
成果と課題	○コオーデイネーショントレーニングを保育に取り入れたり、戸外遊びを多く取り入れたりすることで体を動かす機会が増えている。主体的に体を動かす姿が多くなってきた。(幼稚園) ○体力テストの結果を生かした研修を実施し、全校で共通実践を行いながら体力向上を図っていること、健康課題について家庭、地域と共通理解を図り、特に、歯の健康について具体的な取組を行っている。(小学校) ○食育の授業や思春期講座等を計画的に行い、生徒の実態や学校行事に合わせて、保健だよりや保健室の掲示を工夫するなど、生徒への啓発に力を注いでおり、生徒の自己管理の意識の高まりにつながっていると感じる。(中学校) ○栄養教諭を招き、専門の立場から食に関する指導を全学年で実施していただくことができた。(小学校) ○学校保健委員会を活用して、保健委員会の子どもたちが中心となり自分たちの健康課題を整理し、学校医や保護者、教職員と課題解決に向けた話し合いができた。(中学校) ▲体を動かすことが好きでない子、食事に偏りのある子、メディアづけの子など将来心配に思う園児が数名おり、小学校入学後に支障があるのではと危惧している。(幼稚園)				

4 特別支援教育の充実 (数値目標3.5)			評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校
(1)	多様な学びの場の充実・整備の推進	① 校内(園内)における特別支援教育の充実を図るため、各種訪問や特別支援学校のセンター的機能等による支援を積極的に活用し、計画的に校内(園内)研修を行っている。	3.3	3.3	3.2
		② 幼児児童生徒が学習活動に参加し、互いに学び合う交流及び共同学習を目指し、個別的教育支援計画や個別の指導計画を活用し、担当者間で指導目標や個に応じた支援、評価方法について担当者間で共通理解を図り、指導に取り組んでいる。	3.5	3.4	3.2
(2)	切れ目のない支援の充実	③ 「個別的教育支援計画作成・活用啓発リーフレット」を活用して、計画の作成及び引継ぎ・活用の意義について保護者の理解を促し、本人・保護者の同意と参画に基づいた個別的教育支援計画の作成を進めている。	3.3	3.4	3.2
		④ 幼児児童生徒にとって必要かつ適切な支援が切れ目なく提供されるよう、個別的教育支援計画の記載内容を定期的に評価・改善し、進級時や進学先に引き継いでいる。	3.5	3.4	3.2
成果と課題	<p>○定期的に保護者との面談を行ってきたことで、個別的教育支援計画への理解や、個別支援方法に理解を得ることができた。(幼稚園)</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者と共通理解を図りながら、個別的教育支援計画や個別の指導計画を見直し、作成している。</p> <p>○定期的に特別支援全体会を開き、児童の実態とその対応について共通理解のもと全職員で関わるようにしている。また、外部講師による研修の機会をもっている。(小学校)</p> <p>○定期的に担当者間で情報交換、共通理解を図り個の指導の充実にも努めることができた。さらに外部機関等と連携しながら教師の指導力の向上につなげていきたい。(中学校)</p> <p>○個別の支援・指導計画を活用して、授業や生徒指導を進めている。教員全員が情報を共有し、該当生徒に対応できている。また随時、保護者と相談しながら個別の支援・指導計画の変更を行っている。(中学校)</p> <p>▲保護者の理解と実際の園児の育ちに相違がある時の連携の仕方は難しいケースがある。(幼稚園)</p> <p>▲先生方は丁寧に対応してくださっているが、手が足りていないのが現状である。(小学校)</p> <p>▲子どもたち一人ひとりの成長と自立のために、先生方の困り感なども共有しながら、実態に合った校内研修会を開催したい。(中学校)</p>				

5 学校教育を支える基盤の確立 (数値目標3.5)			評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校
(1)	教職員の服務・勤務の確立と適正な人事管理	① 教職員人事評価について、全教職員が理解し、適切に運用している。	3.7	3.6	3.7
		② 教職員組織を生かして働き方改革を推進し、職場環境の改善に努めている。	3.2	3.3	3.2
(2)	学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	③ 校内服務倫理委員会に、工夫改善を加え、効果的な取組としている。	/	3.5	3.3
		④ 「信頼される学校づくりを職場の力で」を活用している。	/	3.6	3.6
(3)	地域と共にある学校づくりと関係機関との連携強化	⑤ 地域住民・保護者が、学校(園)の経営方針について理解できるよう広報に努めている。	3.5	3.5	3.4
		⑥ 学校評価を適切に行い、その結果を公表している。	3.7	3.4	3.4
		⑦ 学校運営協議会等による学校、保護者、地域の連携促進に努めている。	3.5	3.8	3.4
成果と課題	<p>○学校運営協議会の推進で、学校や保護者、地域とのつながりが徐々に深まってきているように思う。今後も小学校と一緒に地域を巻き込んでいく取組に努めたい。(幼稚園)</p> <p>○校内服務倫理委員会では、毎月点検表を利用してチェックをしている。各ブロックごとに担当を決め、交通安全標語を作成したり、信頼される学校づくりを職場の力で活用したりしながら取り組んでいる。(小学校)</p> <p>○社会に開かれた教育課程を目指し、地域への発信、地域との連携に努めることができた。さらに働き方改革を推進し、学校、教師の力の最大化に努めていきたい。(中学校)</p> <p>▲地域の学校に対する思いを十分に汲み入れ、協力を得ることで教育効果を上げることができている。働き方改革については、意識の格差をどのように埋めるかが課題である。(小学校)</p> <p>▲学校経営の方針や教育活動については、ホームページや各種便り等を通して、保護者や地域の方に発信しているが、地域の方との連携・協働には至っていない。(中学校)</p>				

6 幼児教育の充実と幼小連携の推進 (数値目標3.5)			評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校
(1)	幼児の主体的な活動としての遊びの充実	① 幼児が身近な環境に主体的に関わり試行錯誤したり考えたりする遊びを展開している。また、遊びが連続・発展する環境構成や教師の関わりを工夫している。	3.5	/	/
(2)	幼小連携の取組の推進	② 架け橋カリキュラム(小:スタートカリキュラム、幼:アプローチカリキュラム)を編成(1月は実施・改善)している。	2.9	3.2	/
		③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解と、それを踏まえた指導を工夫している。 【幼稚園】小学校教師との意見交換や合同研究等の機会 【小学校】生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定等	3.2	3.3	/
		④ 幼稚園、小学校間で、相互の教育の内容や方法に関して話し合う機会(計画)を設定している。※合同研修会だけでなく、就学時や入学時等の対話等を含む	3.2	3.5	/
学校の成果と課題	<p>○これまでの取組から、幼稚園の教育について知っていただける機会が増え、双方が歩み寄る関係性になってきたように思う。スタートカリキュラムについても話題になっているので、より良い連携に繋げたい。(幼稚園)</p> <p>○今年度は、幼稚園に小、中学校の先生方に保育参観に来ていただき合同研修会を実施することができたことは大きな成果である。(幼稚園)</p> <p>○教諭が小学校の授業研究と協議に参加したことで、意見交換ができた。今後も幼小連携に向けて、その機会を増やしていきたい。(幼稚園)</p> <p>○1学期に幼稚園・保育園の先生を呼んで授業公開及び意見交換をすることで、互いの教育活動に生かすことができています。(小学校)</p> <p>○昨年度に作成した幼小連携計画をもとに、隣接幼稚園と連携しながら、小学校進学を見据えた教育活動や取組を行っている。(小学校)</p> <p>○幼稚園の先生方と1年生の指導について絶えず共有を図っている。(小学校)</p>				